

⑤【単元目標】知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、本や文章から大事な言葉や文を書き抜くことができる。

⑥【単元の言語活動】いろいろな車の「しごと」と「つくり」を読み取り、事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くことができる。

(相手：学級の仲間 目的：読み取りを絵や文で表現して 方法：「じどう車ひみつ図鑑」を作って 場面：教室 評価：自動車の「しごと」とそのための「つくり」を見つけ、書くことができたか。)

④【教材の特徴】

・乗り物は、児童が興味・関心を示すものの1つであり、特に自動車は身近なものである。それぞれの車の「しごと」と「つくり」が「そのために」という接続後でつながれているため、いろいろな車を比べながら読むことができる。

③【既習事項】

・「くちばし」で、問いと答えの文を見つける学習、「うみのかくれんぼ」で、何が、どこに、隠れ方の3つの答えを見つける学習を経験している。

②【児童の実態】

○説明文に興味をもって読んだり聞いたりして楽しむことができる。
△文と文のつながりを考えて読むことが苦手な児童が多い。

①【重点とする指導事項】

・事柄の順序に沿って、比べながら読むこと。

読むこと (1) イ

⑦【言語活動成立の要件】

ア 「しごと」、「つくり」の意味を捉え、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を絵や文で理解することができる。
イ それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を調べて、「じどう車ひみつ図鑑」を作ることができる。

⑧【単元の流れ】

<p>【第1次】 2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「じどう車ずかん」の例を提示する。 ・題名から内容を予想し、「じどう車くらべ」の範読を聞く。 ・学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。 	<p>【第2次】 4時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文を読み、内容の大体を読む。 ・バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を確かめる。 ・トラックの「しごと」と「つくり」を確かめる。 ・クレーン車の「しごと」と「つくり」を確かめる。 	<p>【第3次】 6時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はしご車の「しごと」と「つくり」を考えて、文章を書き、絵を描いて「じどう車図鑑」をつくる。 ・友達の「じどう車図鑑」を読んで、感想を交流する。 	<p>【交流種の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアをつくって毎時間、「しごと」と「つくり」という車の特徴を交流する。
--	--	---	---

並行読書・・・はたらく自動車の本を紹介し、朝活動などで読むことができるようにしておく。

⑨【単位時間の工夫】

<p>【第1次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「じどう車図鑑」の例を見ることで、「しごと」と「つくり」が図鑑の説明になっていることを理解する。 ・「じどう車図鑑」を作って図書館に展示することで学習意欲を高める。 	<p>【第2次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、学習した車の「しごと」と「つくり」をワークシートに書き抜いてまとめる。 ・隣のペアで書き抜いた内容を読みあって、考えを話し交流する。 	<p>【第3次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習してきたことを活かし、いろいろな自動車の「しごと」と「つくり」について調べ、「じどう車ひみつ図鑑」を作る。 	<p>【交流活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の考えを聞いて、感想を交流する。
--	--	--	---

⑩【支える学習環境】

- ・考えの足場となる教室掲示 (単元を貫く課題の掲示、段落ごとの学習が分かる掲示)
- ・並行読書用図書の設置

【研究とのかかわり】

(1) 願いを明確にした単元指導計画の工夫

・単元を貫く課題を『いろいろなじどう車のひみつ(「しごと」と「つくり」)をくらべよう。』とした。自動車の仕事によって車の作りがそれぞれ違うことを理解していく。また、単元の出口に、自分が選んだじどう車の「自動車図鑑」を作って図書館に展示し全校のみんなに読んでもらうことを位置付けることで、学習への意欲付けを行う。

(2) 考えを深めるための指導の工夫

・深めの発問で、ほかの車と比べてどうして「つくり」が違うのかを考えさせることで、「しごと」のための「つくり」という関係を理解する。また、常に本文と挿絵と関連付けるようにする。

(3) 自己の高まりを自覚できるまとめ方の工夫

・授業の最後に、「しごと」と「つくり」をワークシートに書き、「つくり」のキーワードをカードの挿絵と線で結ぶ。そして、読み取ったこと、今日の学習で学んだこと(高まり)を確認する。

◆本時のねらい

叙述や挿絵と関連付けて話し合うことを通して、クレーン車の「じょうぶなうでが、のびたりうごいたりする。」ことや「しっかりしたあしが、ついている。」ことが「おもいものをつり上げるしごと」に関係しているということを理解することができる。

◆本時の展開 (5 / 1 2)

	学習活動と児童の姿	指導上の留意点 (☆人権教育の視点)
つかむ	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> トラックは荷物を運ぶ「しごと」をしている。 そのために、運転席の他は広い荷台になっている。 重い荷物を乗せるためにタイヤがたくさんついている。 <p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>クレーン車の「しごと」と「つくり」を見つけよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習をまとめた掲示物を活用して、既習の振り返りをする。 クレーン車はものを運ぶのではなく、工事現場で止まって働く車であることを補足する。(掲示写真など)
考える	<p>3 P 3 1を一斉音読する。</p> <p>4 教科書本文の、クレーン車の「しごと」と「つくり」に線を引く。(「しごと」・・・㊦, 「つくり」・・・㊧)</p> <p>5 全体交流で確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「しごと」→おもいものをつり上げるしごと 「つくり」→じょうぶなうでが、のびたりうごいたりする。車たいがかたむかないように、しっかりしたあしが、ついている。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書の中央にそのためにの接続語を、その前後にしごととつくりの掲示をし、本文中の位置関係を示唆し、個人追究の足がかりとする。 「うで」と「あし」を確認する。 動作化などを使って言葉の意味を確かめる。(つり上げる、のびたりうごいたり)
深める	<p>◎トラックにはなかった「じょうぶなうで」や「しっかりしたあし」は、どうしてクレーン車にはついているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重いものをつり上げるから、折れてしまっは困るので丈夫な腕がついています。 重いものをつり上げるから、車体がかたむいてひっくりかえってはいけないので、しっかりした脚を地面に開いて支えます。 重いものをつり上げて、伸びたり動いたりするして別のところに動かすので、折れない腕がついているし、倒れないようにしっかりした脚がついています。 	<ul style="list-style-type: none"> ペア交流では、つなぎ言葉を使って話すようにする。 <p>☆仲間の意見を聞き、わけに気付くことができる。(認識力)</p>
まとめる	<p>6 クレーン車の「しごと」と「つくり」をワークシートに書く。</p> <p>クレーン車は、おもいものをつり上げるしごとをしています。</p> <p>そのために、丈夫な腕は伸びたりうごいたりするようにつくってあります。車たいがかたむかないように、しっかりしたあしが、ついています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書き抜くことができた児童から今日の「つくり」のキーワードじょうぶなうでとしっかりしたあしをワークシートの挿絵と線で結び、挿絵を指さして、クレーン車のひみつを説明できるようにする。 <p>7 今日の学習の振り返りをし、発表する。</p>	<p>評価規準【読む能力】</p> <p>クレーン車の「つくり」である「じょうぶなうで」や「しっかりしたあし」という言葉に着目することを通して、「おもいものをつり上げるしごと」のための「つくり」を読み取り、ワークシートに書き抜いている。 <プリント></p> <ul style="list-style-type: none"> 書くことに抵抗のある児童もいるので、補助プリントを用意する。 クレーン車の仕事とつくりをワークシートに書き、キーワードと絵を線で結べたら①を記入する。